

## 平成 30 年度第 4 回(第 62 回)CPDプログラム委員会議事録

日 時：平成 31 年 3 月 7 日（木） 15:00 ～ 17:00

場 所：乃木坂ビル 4 F 会議室

出席者（順不同・敬称略）：

日本技術士会：宮元均理事（議題 1 のみ出席）

高木真人委員長、田中良彦委員、田中ひろみ委員、原田克之委員、

八坂保弘委員、小澤郁夫委員、境大学委員、高田英治委員、

真島俊昭委員、石川善信委員、坂井博委員、尾崎章幹事

オブザーバ：須藤亮会長、広崎膨太郎前会長

### 配布資料

資料 4-1	平成 30 年度第 3 回（第 61 回）CPDプログラム委員会議事録（案）
資料 4-3-1	第 21 回（平成 30 年度第 6 回）CPD運営委員会議事録（案）
資料 4-3-2	平成 30 年度第 2 回 CPD 協議会シンポジウム 報告
資料 4-3-3	CPD 協議会組織変更検討
資料 4-4	CPD 協議会リンクページの変更
参考資料	JMOOC 講座「土木情報学入門」パンフレット

### 議事

#### 1. 技術士会における制度改革検討について

- 日本技術士会／宮元理事から、制度改革検討について現状説明を受けた。
  - 科学技術・学術審議会／技術士分科会での議論・方針に基づき、日本技術士会／技術士制度検討委員会で更新制度の導入などの課題を検討しており、本年 6 月頃に報告を取りまとめる予定である。
  - 更新制度は、技術士登録者全員を対象とし、更新期間は 5 年に 1 回、5 年間で計 100 時間の CPD を必須とする計画である。CPD 実績証明書の提出と更新講習の受講によって、更新修了者として登録される方式を想定している。
  - 現状、CPD 実績登録は、各学協会がそれぞれガイドラインを策定して、それに基づき実施している。文科省で、ガイドラインの大枠を作り、それに合致している学協会を、技術士 CPD 登録法人として認定する考えである。
  - これにより、各学協会の CPD が活性化すると良い。
  - 文科省でガイドラインの大枠を定める際の参考とするために、日本技術士会が、各学協会の CPD 活動についてアンケートを行い、実情を把握したい。
- これに関連して、以下の質疑応答・コメントがあった。
  - 制度改革のスケジュール感：2 年程度で具体的内容を詰め、その後法改正を行う。順調に行って 2022 年からスタート。

- アンケート調査のスコープ：日本工学会会員を対象に、基本的には、CPDガイドライン・CPD実績登録制度の有無を調査したい。
- アンケート調査の実施時期：本年4月以降
- 技術士以外の人にもCPDの価値が伝わる話である。何時頃オープンになるか？  
→6月に報告書がまとまるのでその時点で公表する。文科省審議会の情報は公開であり、利用可能である。
- 技術士登録人員、試験合格者数の傾向は？  
→登録人員は合格者に応じて毎年増えている。合格者数は、試験問題の難易度にもよるが、傾向としては微増である。
- APEC エンジニア以外に国際協定はあるか？  
→APEC エンジニアの登録を前提とした IPEA 国際エンジニアがある。いずれも技術士資格の取得が前提で、我が国では日本技術士会が事務局をしている。
- 100時間/5年の必須単位は、他の資格と比べて少ないという議論はないか？  
→議論はあった。ガイドラインでは座学以外のポイントも認めているが、実際の登録は座学の研修会が多い。毎年50時間の座学は現実的にはハードルが高い。直接仕事で資格を利用する人以外も対象とするので、推奨は50時間/年とするが、必須は10時間/年以上、5年間で100時間と考えている。
- 建設系などの活用が進んでいる分野以外で更新を義務化すると、資格そのものを放棄する人が出てこないか？  
→資格の活用については、特別委員会を立ち上げて検討して行く。何らかのメリットが出る形が必要で、企業などの組織の中でも資格が評価されると良い。
- 約9万人の技術士を5年間で全員更新する方法は？  
→更新の方法についても、6月の報告書に記載予定である。初期は、2020-21年で40時間のCPDがあれば2022年に更新可とするなど、20時間/年に経過年数に乗じた単位で更新可能にすることが考えられる。
- 今後、日本技術士会でアンケート調査のフォーマットを作り、実施についてCPD協議会と調整することとなった。
  - アンケート結果は日本技術士会内で検討した上で、文科省への提案に反映する。
  - 調査対象はCPD協議会会員だけでなく日本工学会会員に拡大した方が良い。

## 2. 前回議事録の確認

- 資料4-1により、前回の議事録確認を行った。特段の修正・コメントがある場合は、3/15までに、幹事に連絡頂くこととした。  
(その後、コメントなどは無く、本議事録は確認された。)

## 3. CPD協議会運営委員会(2/14)報告

- 資料4-3-1により、CPD協議会運営委員会の議事内容が報告された。
  - 来年度の第1回シンポジウムについて、開催日の決定と周知を早めに行うよう要

望があった。

- 平成 30 年度第 2 回公開シンポジウムについて、資料 4-3-2 により補足の説明が行われ、関連して以下のコメントがあった。
  - 議論だけでなくアクションに落としこいこうというのは良いが、理事会に報告するだけでは意見で終わる。日本工学会のポテンシャルを生かすためにも、会員学協会にまで徹底する必要がある。
  - 今まで、理事の担当は個人の所掌であったが、今年度から委員会を設けて、理事以外の方にも参画頂くようにしている。より組織的に、効率的に活動していきたい。
  - 日本学術会議においてもサイエンスの発言力は強いが、工学系はまとめる力が弱い。日本工学会、日本工学アカデミーが協力して束ねないといけない。
  - 産業界からの提言においても、工学系の提言は少ない。
- CPD プログラムポータルサイトの保守契約解除について、幹事から以下の追加報告があった。
  - メール審議を実施した結果、反対は無く、事務局から委託先に契約解除の申し入れを行った。
  - ソフトウェアが委託先のサーバにインストールされており、保守をしない状態での公開継続はセキュリティ面から不可とのこと。このため、4 月 1 日以降は、ポータルサイトへのアクセスが出来なくなる。
- CPD 協議会の組織変更（主として ECE プログラムに関する委員会名称と組織の位置づけ変更）の検討状況について、資料 4-3-3 により補足の説明が行われた。

#### 4. 委員会の活動について

##### 1) CPD 協議会リンクページの変更

- 資料 4-4 により、リンクページの構成変更案、会員学協会からのリンク掲載了解取得状況、ポータルサイト停止に伴うトップページの構成変更案の説明があり、この方向で、変更を進めていくこととした。

#### 5. その他

##### 1) JMOOC 講座「土木情報学入門」

- 参考資料により、題記について紹介があった。  
<https://open.netlearning.co.jp/lecture/index.aspx?cid=00029J11>

##### 2) その他

- 次回予定については、別途日程調整を行う。

以上